

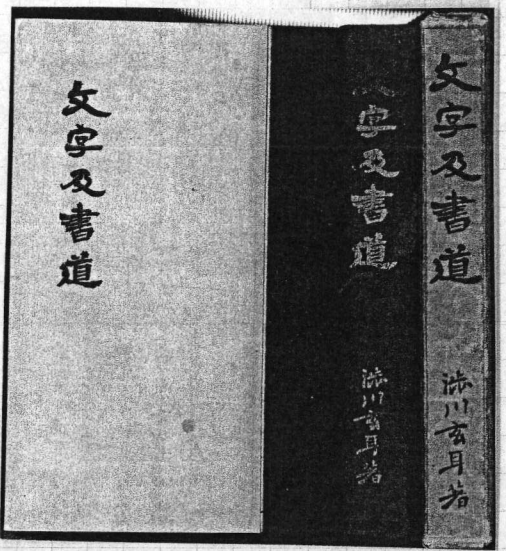
流川玄耳 （玄耳） 新聞記者、著述家、歌人、俳人。明治五年四月二十  
 八月佐賀縣生れ、大正十五年四月九日歿（八七—一九六）。本名柳次郎。  
 別號從吾坊好齋主人、石人、戴野棕十、頑石人、頑石堂主等。國學院  
 東京法學院等（東京）。高等文官・辯護士資格を取得し、熊本第（八）師團  
 法官部勤務。明治四十年（東京）東京朝日新聞に入社、社會部長等を経て大  
 正元年退社。三年（東京）國民新聞の從軍記者として青島に赴き、戦後青  
 島民生顧問となる。十一年（東京）大阪新報の主幹。

著書「從軍二年」（明治四十年十月十五自春陽堂）、「開耳自」（明  
 治四十二年五月十五自春陽堂）、「上方見物」（戴野棕十名、明治四  
 十一年と八月十五自樂社）、「（日本）神典三體古事記」（明治四十四年二月十  
 五日有樂社）、「鈍語」（大正三年二月九日誠文堂書店）、「（白露）戰役從  
 軍二年・（白獨）小敵大敵」（大正五年一月二十二日小川誠文堂）、「（白露）故  
 郷他郷」（大正五年二月十日誠文堂書店）、「從軍二年」（内題「（白露）故郷  
 從軍二年」大正七年二月二十日小川誠文堂）、「新日本見物・（臺灣）臺南  
 朝鮮之卷」（合著・金尾種次郎編、大正七年六月十五日金尾文淵堂）、「（白露）戰  
 役小敵大敵（落柄）」（大正七年六月二十日小川誠文堂）、「（白露）六かぬき」  
（合著・戸川殘花編、大正七年十一月二日清和堂書店）、「（日本）神典古事  
 記」（大正九年四月十日誠文堂書店）、「歌集」（山東公在り）、「大  
 正九年十月二十五日誠文堂」、「新  
 譯平家物語」（内題「（白露）縮制平家物  
 語」大正十一年四月二日金尾文淵  
 堂）、「刺客・劍夜」（大正十四



從軍二年」（大正十一年四月二日金尾文淵  
 堂）、「刺客・劍夜」（大正十四

年一月八日玄耳叢書刊行會「玄耳庵支那叢書」、  
 「松嶺雜記」(大正十四年四月十五日玄耳叢書刊行會)、  
 「法家・刑獄」(大正十四年六月)、  
 「玄耳叢書刊行會」  
 「玄耳庵支那叢書」(昭和二年三月)、  
 「支那仙入傳」(昭和二年三月)、  
 「玄耳叢書房」(資又堂書店發賣)、  
 「文字及書道」(五版、昭和七年二月)、  
 「玄耳(三陽書院)、  
 「滋川玄耳句集」(高田素次編、昭和四十八年八月)、「白龍本・青潮社」「青潮文庫」等。



文字及書道

文字及書道

滋川玄耳著